

東京運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要 平成29年度

開催概要

<主催：関東運輸局東京運輸支局>

- 日時：平成29年11月20日（月）14:30～16:30
○場所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」7階イベントホール
○議事（1）国のバリアフリーの現状と取り組みについて
- ・国からの報告（関東運輸局、関東地方整備局）
- （2）バリアフリーの現状及び取り組み等の発表
- ・タクシーだからできる地域密着の高齢者対策について
（三幸自動車株式会社）
 - ・分野横断的連携による高齢者の移動手段の確保について
（秦野市都市部・福祉部）
- （3）意見交換（公共交通における高齢者対策について）

委員

- <座長>森本 章倫（早稲田大学 理工学術院 教授）（敬称略）
- 笹川 吉彦（公益社団法人東京都盲人福祉協会 会長）
有山 一博（一般社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構
東京都聴覚障害者連盟 福祉対策部長）
高橋 景市（公益社団法人東京都老人クラブ連合会 副会長）
伊東 とも子（社会福祉法人東京都知的障害者育成会
東京都手をつなぐ親の会 研修部会 部会長）
小西 慶一（公益社団法人東京都身体障害者団体連合会 会長）
坂入 竜治（一般社団法人東京精神保健福祉士協会 理事）

参画（委員以外）

- 【施設設置管理者等】バス事業者15者、鉄道事業者10者 【関係協会】一般社団法人東京バス協会、一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会、公益財団法人交通エコロジーモビリティ財団
【関係行政機関】警視庁、東京都、区市町村25者、関東運輸局、関東地方整備局

バリアフリーの取り組み等

- 【三幸自動車株式会社】「タクシーだからできる地域密着の高齢者対策について」
（概要）三幸自動車による西東京市における地域密着型介助付きタクシーの実施状況について
【秦野市】「分野横断的連携による高齢者の移動手段の確保について」
（概要）同一自治体内の都市部と福祉部が協力・連携して高齢者の移動手段確保に取り組んでいる状況について

会議での発言（委員より）

- ・発表のあったタクシー会社の取り組みは良いと思う。真剣に取り組んでいて、障がい者・高齢者が地域で生きていくための重要なポイントである。（都盲人福祉協会）
- ・昨年のホームでの転落事故に対し、ハード面だけでなく、ソフト面の協力をお願いしたところ、構内放送等実施して頂き、助かった。（都盲人福祉協会）
- ・時間がかかってインクルーシブ教育を実施することが必要。（都盲人福祉協会）
- ・ハード面ではかなり充実してきているが車いすで鉄道を利用する際、係員の連絡ミスで降車できず、終点まで行ってしまったことがあった。（都身体障害者団体連合会）
- ・ヘルプマークが昨年JISで認定され、全国共通のマークとして認められて感謝している。（都身体障害者団体連合会）
- ・買い物に行けない高齢者が増えている中、タクシーの初乗り410円がかなり利用されている。（都老人クラブ連合会）
- ・バスの運転手の心のバリアフリー教育がかなり浸透してきて、助かっている。（都老人クラブ連合会）
- ・これからは元気な老人をいかに増やしていくかが課題。（都老人クラブ連合会）
- ・高齢聴覚障害者のニーズ調査の結果、情報が確保できないために外出が難しくなっていることがわかった。（都聴覚障害者連盟）
- ・都内にはろうあ者の高齢施設がない。（都聴覚障害者連盟）
- ・2020年のオリパラに向けて、情報アクセシビリティを広げていく必要がある。（都聴覚障害者連盟）
- ・知的障害者は、ハードよりもソフトによるサポートが必要。交通事業者向けの研修等に協力して、知的障害者について理解を深めて頂きたい。（都知的障害者育成会）
- ・精神障害者でも高齢化が進んでいる。高齢者・障がい者対策の一体的な推進が必要である。（東京精神保健福祉士協会）
- ・薬の関係でトイレの利用が多くなる傾向があるので、小さな駅のトイレの個室を増やすなどの施設面の配慮をお願いしたい。（東京精神保健福祉士協会）
- ・昇降式のホームドアは触れると大音量の警告音が鳴るが、音に敏感な障がい者もいるので危険である。（東京精神保健福祉士協会）

栃木運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要 平成29年度

開催概要

<主催：関東運輸局栃木運輸支局>

- 日時：平成29年11月21日（火）10:00～12:00
- 場所：栃木県自動車整備振興会 教育会館 3階会議室
- 講演：宇都宮大学地域デザイン科学部 呉 世雄 講師
- 報告：バリアフリーの取り組みについて
 - ・国の取り組みについて（関東運輸局、関東地方整備局）
 - ・関係団体の取り組みについて（栃木県タクシー協会）
- 意見交換

委員

- <座長>大森 宣暁（宇都宮大学地域デザイン科学部 教授）（敬称略）
- 長谷川 万由美（宇都宮大学教育学部 教授）
- 麦倉 仁巳（一般財団法人 栃木県身体障害者福祉会 会長）
- 兼目 ちえ子（一般社団法人 栃木県視覚障害者福祉協会 副会長）
- 稲川 直樹（一般社団法人 栃木県聴覚障害者協会 理事）
- 束原 勸（一般財団法人 栃木県老人クラブ連合会 副会長）
- 鈴木 勇二（一般社団法人 栃木県手をつなぐ育成会）
- 興野 憲史（栃木県精神保健福祉会 理事）
- 植村 文恵（栃木県自閉症協会 副会長）

参画(委員以外)

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社、東武鉄道株式会社、関東自動車株式会社、東野交通株式会社、ジェイアールバス関東株式会社、アサヒタクシー株式会社、一般社団法人栃木県バス協会、一般社団法人栃木県タクシー協会【関係行政機関】栃木県、栃木県警察本部、宇都宮市、鹿沼市、真岡市、上三川町、益子町、茂木町、芳賀町、高根沢町、日光市、那須塩原市、大田原市、さくら市、那須町、塩谷町、足利市、栃木市、小山市、野木町【その他】関東地方整備局、宇都宮国道事務所、関東運輸局

講演

【宇都宮大学地域デザイン科学部講師 呉 世雄 氏】「<介護予防・日常生活支援総合事業と移動支援サービスの仕組み>」
（住民主体の移動支援サービスの可能性）

バリアフリーの取り組み等

【栃木県タクシー協会】「栃木県タクシー協会における取組状況」
①運転免許返納割引制度 ②ユニバーサルデザインタクシーの導入 ③乗務員の研修

会議での発言（委員より）

- ・身体障がい者、知的障がい者と同様に精神障がい者にも運賃割引を適用してほしい。
- ・乗務員への研修時に、実際に県内で起こった事例を集めて研修に生かしてほしい。
- ・自閉症者の乗り換えを見かけた際は、身分証を携帯しているので連絡して行先を確認してほしい。
- ・白杖を持っている視覚障がい者に対して、駅待ちのタクシーに乗車した際はタクシー会社名を伝えてほしい。
バス停で行先をはっきり伝えてほしい。
- ・聴覚障がい者は見た目では分かりずらく、乗務員に理解されていないかたもいるので、協会も協力しますので研修をしっかりといただきたい。
- ・栃木県においてヘルプマークが導入されたが、周知されないという意味がないので、関東地方だけでも周知していただきたい。

山梨運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要 平成29年度

開催概要

<主催：関東運輸局山梨運輸支局>

- 日時：平成29年11月22日（水）14:00~16:00
- 場所：山梨県立男女共同参画推進センター 大研修室
- 議事（1）公共交通に関する高齢者対策について
関東運輸局
- （2）関東地方整備局のバリアフリーの取り組みについて
関東地方整備局
- （3）〈講演〉高齢運転者の運転免許返納等について
一般社団法人山梨県老人クラブ連合会副会長 畠山 哲様
- （4）意見交換

委員

（敬称略）

- <座長> 佐々木邦明（山梨大学大学院総合研究部工学域教授）
- 畠山 哲（一般社団法人山梨県老人クラブ連合会副会長）
 - 芦沢 茂夫（支えあう会「ピーチ&グレープ」代表）
 - 山西 孝（山梨県知的障害者支援協会会長）
 - 矢崎 繁（一般社団法人山梨県視覚障害者福祉協会副会長）
 - 仁科加代子（一般社団法人山梨県聴覚障害者協会事務局長）
 - 川崎 博史（山梨県精神障害者家族会連合会）
 - 星合 深妃（NPO法人HappySpaceゆうゆうゆう理事長）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社八王子支社、山梨交通株式会社、富士急行株式会社、富士急山梨ハイヤー株式会社、一般社団法人山梨県バス協会、一般社団法人山梨県タクシー協会
【関係行政機関】山梨県、都留市、山梨市、大月市、韮崎市、南アルプス市、甲斐市、中央市、富士川町、山中湖村、関東地方整備局、関東運輸局

講演

【一般社団法人山梨県老人クラブ連合会副会長 畠山 哲氏】「〈講演題目〉「高齢運転者の運転免許返納等について」

バリアフリーの取り組み等

東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社

- 甲府駅、大月駅、上野原駅について内方線付点状ブロックの整備を今年度中に整備予定
- 四方津駅、酒折駅について地元自治体と協議し、段差解消に向けて取組中
- 「声かけ・サポート」運動を実施中であり、お困りになっているお客様へ社員が積極的に声かけをするとともに、お客様へもお困りの方に対して助け合いのご協力を呼びかけしている。

会議での発言（委員より）

- ・内方線付点状ブロックの設置条件を3,000人以上の利用客に見直していただきたい。
- ・電気自動車は、走行騒音が小さいため接近がわからず危険である。
- ・電車のボタン式開閉装置で乗車する際にボタンの位置が分からなかったり、道路を歩いているときに困った時に助けをお願いする際、白杖を頭上に上げて助けを求めると運動を進めていく。
- ・高速バスのバリアフリー化をお願いしたい。
- ・歩道に雑草が生い茂っているため、副に雑草が付着し、除去するのが困難である。歩道の雑草を除草願いたい。
- ・南アルプス市、アスファルト合材協会と共同して市道と歩道の段差解消に努めているが、県内には車いす利用者にとって、走行しづらい箇所がある。
- ・公共交通全てにおいて、精神障がい者の利用割引をお願いしたい。
- ・大阪、京都方面の高速バスの途中駐車場の車内表示が無い場合がある。車内表示をしていただきたい。
- ・タクシー券を利用することができないことがあった。タクシーの乗務員への周知及び、障がい者の話をよく聞いていただければ、トラブルは防げたと思う。
- ・移動手段の無いお年寄りが病院等に行く際、近所の人たちがボランティアで自分の車で連れていっているが、万が一事故があった際の保険はどのようにすればよいのか。

埼玉運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要 平成29年度

開催概要

<主催：関東運輸局埼玉運輸支局>

- 日時：平成29年11月30日（木）10：00～12：00
- 場所：岩槻駅東口コミュニティセンター多目的ルームC
- 議事：公共交通に関する高齢者施策
 - ・各団体より取組み内容の紹介及び埼玉県等各施設管理者への要望
 - ・公共交通に関する高齢者対策について
 - ・関東地方整備局のバリアフリーの取組み
 - ・意見交換

委員

(敬称略)

- <座長>高橋 儀平（東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科教授）
- 岡村 淳子（公益社団法人埼玉県視覚障害者福祉協会会長）
- 平野 力三（埼玉視覚障害者の生活と権利を守る会事務局長）
- 川津 雅弘（一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会副代表理事）
- 野島 久美子（埼玉障害者市民ネットワーク代表）
- 飯塚 壽美（埼玉県精神障害者家族会連合会会長）
- 矢崎 弘美（埼玉親の会『麦』事務局）
- 長岡 洋行（埼玉県発達障害福祉協会副会長）

参画(委員以外)

【施設設置管理者等】国際興業株式会社、朝日自動車株式会社、株式会社つばめタクシー、第三交通株式会社、一般社団法人埼玉県バス協会、一般社団法人埼玉県乗用自動車協会【関係行政機関】埼玉県、白岡市、川口市、熊谷市
【その他】関東地方整備局、関東運輸局

バリアフリーの取組み等

【国際興業株式会社】

ノンステップバスの導入を進めている。
運転手のスキルアップに取り組んでいる。

【朝日自動車株式会社】

全車車内に筆談具を備えるとともに、シールにより車内周知をしている。

【株式会社つばめタクシー】

JAPANTAXIの導入を進めている。

【第三交通株式会社】

UDタクシーの導入を進めている。

会議での発言（委員より）

- ・歩きスマホを止めてほしい。
- ・事故を未然に防ぐ意味でもホームドアの設置を推進してほしい。
- ・内方線付き点字ブロックの設置を進めてほしい。
- ・夜行バスの休憩時間について聴覚障害者には車内アナウンスが聞こえないので何分休みなのか分からない。乗務員も休憩しており確認が出来ないため満足に休憩が出来ないので視覚的に認識できる方法も考慮してほしい。
- ・鉄道で事故等により電車が止まった時、放送では聴覚障害者は聞こえない。案内表示や電光掲示板を多く設置して情報を知らせてほしい。また、精神障害者がパニックに陥らないよう、ゆっくり丁寧に情報を伝えてほしい。
- ・新幹線や特急などのデッキ型車両において、電動車椅子利用者に配慮したスペースの確保をしてほしい。
- ・発達障害者は、自分の知っているやり方と異なると戸惑ってしまうことがある。（バス料金の先払い、後払い、タクシーの走行順路等）乗務員は事務的でなく、わかりやすい説明と親切的な対応をしてほしい。

千葉運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要 平成29年度

開催概要

<主催：関東運輸局千葉運輸支局>

- 日時：平成29年12月1日（金）14：00～16：00
- 場所：サンプラザ市原
- 基調講演：日本大学理工学部教授 藤井 敬宏 氏
- 特別講演：市原市自閉症協会 会長 草野 和恵 氏
- 議事（1）バリアフリーに関する取り組みについて
 - ・バリアフリーに関する事例紹介（交通事業者、自治体）
 - ・国のバリアフリーの取り組みについて（整備局・運輸局）
- （2）意見交換

委員

（敬称略）

- <座長> 藤井 敬宏（日本大学理工学部教授）
佐藤 通安（市原市身体障害者福祉会 会長）
古山 日出男（（社福）千葉県視覚障害者福祉協会 評議員）
増田 伸也（（社福）千葉県視覚障害者福祉協会 相談支援専門員）
田口 敏子（市原市手をつなぐ親の会 会長）
本吉 洋子（（一社）千葉県精神保健福祉士協会 精神保健福祉士）
草野 和恵（市原市自閉症協会 会長）
板倉 康之（ちはら台シニアクラブ連合会 会長）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】いすみ鉄道(株)、小湊鐵道(株)、日東交通(株)、千葉中央バス(株)、ジェイアールバス関東(株)館山支店、(有)潤井戸タクシー、(一社)日本民営鉄道協会、(一社)千葉県バス協会、(一社)千葉県タクシー協会【関係行政機関】千葉県、茂原市、市原市、君津市、富津市、いすみ市、鴨川市、一宮町、大多喜町、千葉県警察本部 【その他】関東地方整備局、千葉国道事務所、関東運輸局

講演

- <基調講演> 【日本大学理工学部教授 藤井 敬宏 氏】「バリアフリーマップの作成・運用状況からみた観光行動支援について」
- <特別講演> 【市原市自閉症協会 会長 草野 和恵 氏】

バリアフリーの取り組み等

【小湊鐵道株式会社（バス部門）】ノンステップバスの導入促進、車内運賃表示器の大型化、バスロケーションシステムの導入、ノーカー優待の実施 他。
【有限会社潤井戸タクシー】福祉車両の導入状況、「介護・子育て支援・陣痛タクシー」、「デマンド乗合タクシー」等の説明、他。
【市原市役所】心のバリアフリーの取り組み、職員の行動マニュアルの作成、障がい者における心のバリアフリーの推進、他。

会議での発言（委員より）

- ・バリアフリーも少しずつ改善されてきている。自家用車で移動をしてきて、これからは年齢的に難しくなるときに事業者の方々や社会全体の心配りととても感謝している。
- ・精神障害は目に見えない障害で一般の方々にわかってもらえないところがつらい。今日紹介してもらった市原市のヘルプマークだがこれがあれば街中で声をかけてもらえたりコミュニケーションが進むと思うので普及に努めて欲しい。
- ・駅のホームから視覚障害者が転落する事故が相次ぎ発生している。ハード面でかなり進んでいる中で声掛け運動もやってもらっており声掛けをしてくれる一般の方が増えた。
- ・視覚障害者という全員が全盲かと思われてしまうが統計的には全盲は全体の三割程度である。つまり七割は多少は見えているのでそこを見据えて整備なり進めて欲しい。
- ・電車もバスも緊急時にAEDを使うことがあると思うがAEDは音声伝達なので聴覚障害者には対応していない。ボードを用意するとかしてほしい。
- ・駅について、最近駅名の表示が減っている。車内から見てどこの駅にいるのかわからない。文字表示がない車両に乗っているときは車内から見てどこの駅にいるのかわからないので文字表示は減らさないでほしい。

神奈川県運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要 平成29年度

開催概要

＜主催：関東運輸局神奈川運輸支局＞

- 日時：平成29年12月5日（火）14:00～16:00
- 場所：神奈川県トラック総合会館7階大研修室
- 講演：横浜国立大学理事・副学長 中村 文彦 氏
認定特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク 理事長 清水 弘子 氏
- 意見交換：講演、各委員からの意見・提案に関する意見交換
- 情報提供：整備局・運輸局のバリアフリーの取り組みについて

委員

（敬称略）

- 中村 文彦（横浜国立大学 理事・副学長）〈座長〉
- 久保田 仁（公益財団法人横浜市老人クラブ連合会事務局次長）
- 戸井田愛子（公益財団法人神奈川県身体障害者連合会会長）
- 鈴木 孝幸（特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者福祉協会 会長）
- 河原 雅浩（公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 事務局長）
- 坂田 信子（横浜市中心身障害児者を守る会連盟事務局長）
- 吉富 多美（認定特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド理事）
- 清水 弘子（特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク理事長）

参画(委員以外)

- 【施設設置管理者等】鉄道事業者12者 バス事業者9者 タクシー事業者5者
- 【関係団体】一般社団法人神奈川県バス協会、一般社団法人神奈川県タクシー協会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部
- 【関係行政機関等】神奈川県、神奈川県警察本部、横浜市、川崎市、相模原市、茅ヶ崎市、平塚市、関東地方整備局、関東運輸局

講演

- 【横浜国立大学 理事・副学長 中村 文彦 氏】「＜講演題目＞高齢化社会に向けた公共交通における安心・安全な移動」
- 【認定特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク 理事長 清水 弘子 氏】「＜講演題目＞「福祉と交通」～国の動き、地域の取り組み」

バリアフリーの取り組み等

『福祉ニーズにこたえるタクシー利用推進プロジェクト』

【共催】一般社団法人 神奈川県タクシー協会／特定非営利活動法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク

【趣旨】UDタクシーの導入及びUDドライバー研修を実施しているが、知的障害児者への対応は十分な実績をつくるには至っていない。

障害当事者家族、事業者などとの意見交換を行い、中間支援組織が介在することでタクシー事業者の福祉対応への意識向上と、利用者が安心して利用できる環境整備に具体的に取り組んでいく。

【取組】本年1月より、横浜市港北区、鶴見区、都筑区にて利用者登録を開始。取り組み推進のためにパンフレットの配布や利用促進の動画の作成を実施。今後も周知などを行いつつ神奈川県全域で展開できるようにプロジェクトを推進していく。

会議での発言（委員より）

【鉄道関係】

- ・鉄道駅での声かけ運動により、駅員さんなど支援してくれる人が増えてくれる。
- ・駅のホームドアの設置の計画が次々と発表されているので今後も普及してほしい。
- ・交通系ICカードの障害者版が関東では作られていない。切符を入れられる改札が少ないため、特に大きな駅では困ることも多いので関東でも必要となる。
- ・ここ数年、駅の無人化、駅員の常駐時間の短縮が進み何かあった時にインターホンでの会話が困難な聴覚障害者にとってはバリアとなっている。
また、交通機関の乱れが生じた時に、聴覚障害者に必要な情報が伝えられないという状況の改善が進んでいない。

【バス関係】

- ・バスの行き先案内板や駅の掲示板が高齢者やロービジョンの人たちに分かるように文字の大きさや設置位置、配色などが配慮されるようになってきた。
- ・現在のバスは高齢者には乗降しにくく、車内の移動が大変である。また、鉄道とバスの連絡が円滑で無いため移動に不便な思いをしている高齢者も多いと思われる。

【タクシー関係】

- ・タクシーの運転手の方の配慮がとても素晴らしい。声をかけてくれたり会話もしてくれたり色々配慮してくれることが多く助かっている。車いすでそのまま乗車出来る車輛で移動するとき、車いすのまま乗ると揺れで辛いときもあるので、運転手さんに座席に座らせて欲しいとお願いすると快く受けてくれる。

茨城運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要 平成29年度

開催概要

<主催：関東運輸局茨城運輸支局>

- 日時：平成29年12月14日（木）13:30~16:00
- 場所：日立市役所 5階 503・504号会議室
- 議事・バリアフリーの視点からの日立市新庁舎視察歩行
 - ・日立市におけるバリアフリーの取り組み
(日立市都市建設部都市政策課)
 - ・国におけるバリアフリーの取り組み
 - ・意見交換

委員

(敬称略)

- <座長> 山田 稔 (茨城大学工学部都市システム工学科 教授)
- 益子 明子 (茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 副会長)
 - 坂場 篤視 (社会福祉法人 茨城県視覚障害者協会 理事長)
 - 吉沢 馨 (一般社団法人 茨城県聴覚障害者協会 副会長)
 - 郡司 征樹 (一般社団法人 茨城県心身障害者福祉協会 理事)
 - 弓野 孝子 (一般社団法人 茨城県精神保健福祉会連合会 理事)
 - 伊藤 裕司 (茨城LD等発達障害親の会 星の子)
 - 有賀 絵理 (茨城大学非常勤講師)
 - 高松 志津夫 (NPO法人ウイブ 北茨城代表・地域公共交通マイスター)

参画(委員以外)

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社水戸支社、日立電鉄サービス株式会社、茨城交通株式会社、日立電鉄タクシー株式会社、一般社団法人茨城県バス協会、一般社団法人茨城県ハイヤー・タクシー協会、【関係行政機関等】茨城県、茨城県警察本部、日立市、常陸太田市、北茨城市、常陸大宮市、高萩市、大子町、独立行政法人自動車事故対策機構茨城支所 【その他】関東地方整備局、常陸河川国道事務所、関東運輸局、茨城運輸支局

視察歩行

【日立市総務部新庁舎建設課】バリアフリーの視点から日立市新庁舎の視察歩行を実施

バリアフリーの取り組み等

【日立市】「日立市におけるバリアフリーの取組み」

- ・公共交通に関する高齢者対策として、高齢化率の高い6地区において、地域住民・交通事業者・行政が連携し、各々の役割分担のもと目標を設定し、協定を締結して利用促進を図る「パートナーシップ事業」を展開。事業実施地域は、事業取り組み前に比べ103%の利用者があり、利用者の維持・確保に一定の効果が出ている。

会議での発言 (委員より)

- ・車椅子でも安全に行けるバリアフリー化された神社があっても良いのではないかな。
- ・点字ブロック上に物を置いたり立ち話をしたりするのは避けていただきたい。
- ・視覚障害者を見かけたら是非、声掛けをしてほしい。大部分の人は安心するし、ありがたいと思う。
- ・聴覚障害者が一番困っていることは、電車の事故の時に情報がないこと（何が起きているのかわからない）。字幕表示の情報があると良いので整備をお願いしたい。
- ・知的障害者は大きな音などでパニックをおこす方もいるので、どうしても人混みを避けて出かける。配布されたコミュニケーションハンドブックなどで知的障害者を理解してもらい、おおらかに見て頂ける空気ができるとうかけて行ける場所が広がっていくと思う。
- ・障害者にとっては、何よりも心のバリアフリーが大切であり、また課題でもあると思う。
- ・教育の場で精神障害というものについて、きちんと教えてほしいと思う。
- ・発達障害者が電車で変な目で見られた時（圧迫等を受けた時）に障害者手帳を見せてグリーン車（別空間）に一時的に避難することはできないか。
- ・「障害者に対しては、こういうアプローチや声掛けが出来る」ということを今いる人に教育していくことが大切であると思う。
- ・高速バスに車椅子も乗れるように早くしていただきたい。
- ・心のバリアフリーが大切というキーワードは皆さんから出てきたが、もうひとつ障害者差別解消法の周知徹底もしていただきたい。
- ・心のバリアフリーや声掛け運動は教育の力によると思う。学校での教育、社内での教育、行政の皆さんの社会教育を進めていただきたい。

群馬運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要 平成29年度

開催概要

<主催：関東運輸局群馬運輸支局>

- 日時：平成30年1月9日（火）14:00～16:00
- 場所：群馬県社会福祉総合センター 203会議室
- 議題：公共交通に関する高齢者対策について（関東運輸局）
関東地方整備局のバリアフリーの取組について（関東地方整備局）
公共交通に関する高齢者施策への取組について
（一般社団法人群馬県バス協会、一般社団法人群馬県タクシー協会）
- 講演：一般財団法人群馬県老人クラブ連合会 木村 常昭氏
意見交換

委員

- <座長>湯沢 昭（公立大学法人前橋工科大学名誉教授）（敬称略）
- 木村 功（公益社団法人群馬県視覚障害者福祉協会会長）
 - 高橋 宜隆（公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会（DET群馬））
 - 新井 正和（公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会（CIL上州プロジェクト））
 - 木村 常昭（一般財団法人群馬県老人クラブ連合会常務理事兼事務局長）
 - 上野 勝征（特定非営利活動法人群馬県精神障害者社会復帰協議会理事）
 - 山田 智子（群馬県自閉症協会事務局）

参画(委員以外)

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道株式会社高崎支社、一般社団法人群馬県バス協会、一般社団法人群馬県タクシー協会、群馬県個人タクシー協会
【関係行政機関】群馬県、群馬県警察本部、前橋市、高崎市、伊勢崎市、渋川市、太田市、【その他】関東地方整備局、関東運輸局

講演

【一般財団法人群馬県老人クラブ連合会 常務理事兼事務局長 木村 常昭氏】「<講演題目>～のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを～」

公共交通に関する高齢者対策等

- 【一般社団法人群馬県バス協会】群馬県共通バスカード「ぐんネット」の紹介。（65歳以上の方が格安で利用できる「敬老バスカード」等）乗合バス乗り方教室の開催。（主に県内の小学生、高齢者が対象。）今後も地域でのイベント等に合わせるなど機会を捉えて実施していく。運賃の割引制度（身体・知的・精神障害者等）の紹介。
- 【一般社団法人群馬県タクシー協会】UDタクシーの導入、UDドライバー研修を実施。今後も両者の導入を促進していく。タクシー配車業務において、耳の不自由な方向けにFAXでの予約を行う、タクシー車内に点字シールを貼り、事業者名、車両番号等を確認できるようにするなどバリアフリー対策を進めている。タクシー運賃の一部を支援する「マイタク」の導入も促進していく。

会議での発言（委員より）

- ・トイレの水洗ボタン・レバーの位置を統一してほしい。視覚障害者からはわかりづらい。
- ・無人駅やバス運行での無人化は、高齢者・障害者への配慮をしつつ進めてもらいたい。
- ・視覚障害者からは、バスの停留所の位置がわからないので、音楽を流すなど、対応を考えてもらいたい。
- ・困っている人がいたら声をかけるなど、心のバリアフリー（ソフト面でのバリアフリー）を進めてもらいたい。
- ・駅・トイレ等の施設は、障害当事者の意見をピックアップした上で、導線を考えて設置してほしい。
- ・電動車いすでバスに乗車する際、電動車いすが重い、乗務員の知識がない、などの理由でバスの乗車ができなかったことがあるが、今後このようなことがないように乗務員の教育等に努めてほしい。
- ・鉄道・バス・すべての場所で共通利用できるようなICカードや、障害者手帳のID化を進めていったらよいのではないか。
- ・障害者・高齢者にとって暮らしやすい社会は、誰にとっても暮らしやすい社会だということを理解し、本当のバリアフリー社会の実現につなげてほしい。
- ・ハード・ソフト面でのバリアフリーは、今日明日ですぐに実現できるものではないので、今後も継続的に改善に取り組んでいただきたい。